

関東甲信越土を考える会 総会・研修会を開催しました

2024年3月6日



挨拶する渡邊会長

2月14日(水)・15(木)に茨城県で「関東甲信越土を考える会」の総会・研修会を開催いたしました。

「土壌のつくり方と活かし方」と題した今回の研修会は、会員と一般参加の生産者・企業様・事務局を合わせ、50名余りが土浦市のホテルマロウド筑波に集まり、片岡監事を司会にしたディスカッションを行いました。

1つ目のテーマは「肥料・堆肥の使い方、どうしてますか?」。最初に土壤医の資格をお持ちのアイアグリ株式会社 齋藤様から「異常気象などが増える中で安定生産をするためには、ご自身の土をよく見てその弱点となっているところに注力する事が大切」と、堆肥や緑肥の種類やそれぞれの持つ特長などについてお話をいただきました。その後、各テーブル毎のディスカッションで、それぞれの地域が抱える問題点などを共有した後、その具体的な課題について、齋藤様や雪印種苗株式会社の小川様にご回答いただきました。



2つ目のテーマ「なぜ、関東甲信越で乾田直播が広がらないの?」では、千葉県で乾直の指導に長年携わってきた元千葉県農林総合研究センター長の在原氏(現スガノ農機顧問)より、関東地域での乾田直播の現状についてお話をいただいてから、テーブルごとに活発な意見交換が行われ、初日の研修会は終了となりました。

その後の総会では、2023年度の事業報告・会計報告、2024年度の活動計画など、全ての議案は承認され、新たに入会し今回参加した2名(2023年度入会者数:7名)の紹介も行いました。総会後の情報交換会では、それぞれの状況や今後の取組みなどなど、お酒が入り更に熱い話で盛り上がっていました。

翌日は、スガノ農機茨城本社工場の工場見学の後、つくば牡丹園に移動し、園長の関 浩一氏(農学博士)による講話をいただきました。JRA美浦トレーニングセンターのサラブレッドの馬糞を使った堆肥の解説や、有機農業や微生物の話に皆さん深く傾きながら、興味深く耳を傾けていました。参加者のほ場状況についてのアドバイスもいただくなど、話が尽きず中身の濃い時間を過ごすことができました。



アイアグリ(株) 齋藤様(左)と雪印種苗(株)小川様(右)



総会の様子。全ての議案が承認され、新会員の紹介もありました。



矢野副会長の乾杯の挨拶ではじまった情報交換会の様子。



つくば牡丹園では園長(右端)から有機農業や微生物など、様々なお話を頂きました。

